

よろいぶでんしじしん

エイゾウ

はじめに

ゼンチヨ『むしのツゴウ ニンゲンのツゴウ』をハツピヨウしてからイチネンほどたった。コンカイはブンリヨウをジュウマンジテイドにふやしたので、イチネンでまたこうしてチヨシヨをおもてへだせるかはわからなかった。しかし、おわつてみるとアンガイはやくかきおわつた。わたしのいいたいこと（とっていいかわからないが）が、サクネンよりふえたのかともおもう。しかし、かくのはラクでも、ダツコウ、ヘンシユウのサギヨウはかなりジンがかかった。ジツシツイツカゲツちよつとだが、サンカゲツほどかかった。そのクロウがあつて、いまはヘンシユウにめどがつきほつとしてゐる。

ジカイはコンネンチュウにだせるかであるが、シツピツチュウである（ハンブンテイドかきおわつてゐる）。ジツはネットワークでレンサイをしている。おきにめせばゴランいただければとおもう。すきなことをかいてゐるが、わたしのあたまのなかをセイリするモクテキもあるのでゴカンベンいたきたい。またコンカイもカタカンタイシヨウヒヨウをつくつた。カタカナゴがわからないばあいにサンシヨウしてほしい。

「ひやめしをくわせる。」などというが、「ひやめし」はあまりジユウヨウでないひとにくわせるという。つまり、だれかのいえにいつて、ひやめしがでてきたら、あまりカンゲイされていけないということだ。これはブンカというかフチヨウであるからさからいづらい。わたしはひやめしをよくたべる。わたしのいうコウゾウシュギテキにえば、「わたし」は「わたし」とってカンゲイされていけないことになる。そういうブンカ、フチヨウコウゾウがあるのだから、そういうことになる。しかし、わたしはわたしにひやめしをだすとき、けっして「カンゲイ」していかないわけではない。ただ、あたためる（ヒツヨウがあるにせよ）にはエネルギーがかかる。そこまでして、あたためる（ヒツヨウがあるにせよ）とはおもってないからだ。これはキノウシュギテキで「エネルギー」のセツヤクがモクテキされている。しかし、ブンカやツウヨウするフチヨウからすれば「カンゲイされていけない」というイミがそこにあるとされてしまう。いやいやそういうことではないんだ。といつても、コウゾウをダイジにするひとは、「カンゲイ」していかないやつ、「カンゲイ」されていかないやつといわれてしまう。しかし、わたしは「ひやめし」をたべることをやめない。そのコウゾウをまもることよりも、エ

ネルギーのセツヤクのホウがユウセンされるのである。

わたしもダイブ「コウゾウシユギ」テキになったが、ときおりこういったダツコウゾウするのである。わたしはジチヨ『アルクカラカンガエル』で、「ダツチ」をテイシヨウした(●)『アルクカラカンガエル』『イカ』『ア』『ヒヤクロクジュウシチ)。「ダツチ」とは、あるチシキがあると、その「あることがら」にタイして、センニユウカンをもってしまうことがあるが、そういうヘンケンといたりするが、そういうみかたからダツして、ジブンジシんでカンサツしてみようということだ。そういう「ジゼンチシキ」もキョウイクなどでキョウカされたり、いくつかのコウゾウをたもっていたりするから、ユウキがないとダツコウゾウはできない。たとえば、キンリをさげるとひとがシヨウヒをはじめというセツがある。ツウカのカチがさがるわけだから、ほかのものにシサンをうつすというまっとうそうなセツだが、これはかならずしもただしくない。キンリがさがるといっても、さがるキンリはセイサクキンリ(コウテキキカンとギンコウのとりひき)についてだけだから(サラキンがキンリをさげるわけではない)、ケツカ、ひととギンコウのとりひきにはそうエイキョウはない。さらにコクガイシジヨウもあるのです、ニホンではキンリがさがっても、コクガイのキンリがたかいツウカやシヨウケンでウンヨウすることができる。だから、キンリがさがってもキンリ

はさがらないのである。こういうことも「ダツチ」をするとみえてくる。

二

「チイキのエンがうすれた。」というようにはなしをきく。チイキのキョウドウタイがちからをうしなつたというようにはなしである。やなぎだくにおによれば、むかしはさかななどのシヨクリヨウをチイキでイツセイにコウニユウしていたという。つまり、むかしはチイキではおなじようなものをたべていたということである。それがメイジイコウ、それぞれシヨウテンでさかなをかつたり、ヤサイをかつたり（つまりトシカした）、いまではダイキボシヨウテンでにくをかつたり、カコウシヨクヒンをかつたりしている。

このレイをひいてなにいいたいかというと、キョウドウタイをコウセイするコジンがたべるものが、それぞれになつたということである。おなじチイキでくらすエーさんはゆうごはんにカツどんをたべ、またおなじチイキでくらすビーさんはやきざかなをというグアイである。つまりそのエーさんとビーさんはキョウツウのヨウソがすくない。いや、「セイブン」といったホウがよいかもしれない。つまり、おなじものをたべていたむかしとくらべて「キ

ヨウツウセイ」がすくないのである。だから、チイキのエンはうすくなったといえるとおもう。いや、もつともイツシヨのものをたべなくなったホウがさきか、チイキのエンがうすくなったホウがさきかはわからない。しかし、それがカンレンしあつて、「チイキのエンがうすくなった。」といわれるまでにシンコウしたのだろう。

しかし、レイガイもある。それはガツコウキユウシヨクをたべるシヨウチュウガクセイである。かれらは、さきにセツメイしたようにおなじものをたべているがゆえに「こい」キョウドウタイなのだろう。おなじものをたべるカゾクもそうだ。しかし、おとなはキユウシヨクをたべるキカイがあまりないから（シャインシヨクドウやビョウインでたべることがあるう）、チイキキョウドウタイはちからがよわまったままだ。ムリヤリおとなにもキユウシヨクをたべさせるようになれば、チイキキョウドウタイのちからはつよまるだろうが、「むかし」のように、つまりチュウセイのようになる。これを「サイチュウセイカ」とよんでおく。いってみれば「グローバルカ」のギャクである。

サン

二ホンのガツコウのソツギヨウシキには、おくることばの「ソウジ」とソツギヨウセイのことばの「トウジ」がある。その「ソウジ」をよみあげるヤクになつて、よみあげるブンシヨウをかんがえた。そこまではよかつた。しかし、レンシユウでよみあげてみると、シドウのキヨウシが、おまえのはカンジヨウがこもつていないとかいう。それはもつともなのかもしれないが、ガツコウのカテイをおえて、つぎにむかうソツギヨウセイは、タシヨウなりともカンガイぶかいだろうが、ただみおくるザイコウセイにとつては、いや、すくなくともわたしにとつては、あまりカンゲキというのがなかつた。たしかにおおゲンカしたり、なんかのギノウにたけていたり、とクシヨクがあるソツギヨウセイだったら、ちからがはいるテンがあるだろう。しかし、わりとまじめなソツギヨウセイだったから、やはりカンジヨウがはいりづらかつたんだろう。だから、ナンドもナンドも「カンジヨウ」がこもつたよみあげができるよう「エンギ」シドウをうけた。

いまかんがえてみると、「カンジヨウ」がこもつたよみあげを、キカイにやらせるには、ギノウがヒツヨウだ。ずつと、「ド」のおとでよみあげると、いわゆるぼうよみになるが、「ドレドレミレド」というようによめば、いわゆるカンジヨウのこもつた（とおもわれる）よみあげになる。

いま、そんなエンジをするんだったら、シドウのセンセイに、「グタイテキなおとをシテイしてください。できればゴセンにかいて。」と行ってしまおう。それほどやりなおしをさせられたことをおぼえている。そうしないですますには、「ソウジ」のブンをカシヨウするとよいだろう。

ヨシ

いつからだか、「スパゲッティ」や「ピザ」がはやりだしたような気がする。また「ラーメン」とか「パン」もなにかとうれているような気がする。しかし、ひるごはんに、スパゲッティをたべたロウドウシヤがテツコツをもちあげられるきがしないし、ひるめしにラーメンをたべたカイシヤインがモクザイをタクサンはこべるとはおもえない。

ジツはそうやって、ニホンケイザイは、ちからしごとがゲンシヨウして、デスクワークのわりあいがあるかないかもしれない。「シヨク」のヘンカがさきか、「シヨクギヨウ」のヘンカがさきかはわからないが、すくなくともタイリヨクをつかわないしごとがふえているんだろう。このケイコウはバブルのあたりから（パンとラーメンはまえからよくあった。）つよくな

り、いまもつづいてるようだ。きつくいえば、ニホンジンのヒンジャクカがすすんでいると。

そのころから(ケイザイの) テイセイチョウがはじまった。そういうシヨクリヨウをこのみつづけるとしたら、(ケイザイ) セイチョウはむずかしいとおもう(やはりタイリヨクシヨウブであろう)。むかしのセンソウは「シヨク」にこまつたらしいが、そのケツカだろう、たたいつづけれなかった。いまはたべるものがあるとはいえ、エイヨウカのひくいものは、たたいつづけるのはむずかしいであろう。

ロク

ニホンジンはクイズがすきなのだろう。テレビバングミでもやっているとおもう。わたしはそういうのはすきではない。シヨウチュウガクセイのころは(ベンキョウというクイズを)ときおりやっていたが、まあまあのホウだった。タブンそうやってあるテイドのジカンをすごすから、「クイズ」にテイコウないひとがおおいのだろう。

サイキンはそういう「クイズ(シケン)」のカイトウをデンシサイトからひっぱってきて

カイトウすることもあるときく。それでよい、わるいというのだが、どうせ「キョウカシヨ」からこたえをひっぱってきて、カイトウヨウシにフクシャするのだから、ガクセイならそれでわるいことはないとおもう。

しかし、そういうったデンシキヨウカシヨがはやると、かみバイタイのキョウカシヨがうれしくなってしまうだろうから、キョウイクサンギョウからは、わるいというヒョウカがでるのだろう。わたしはジユギョウでつかったものイガイにクイズボンのクイズをといたことはない。カッコウがいいからとかつたことはかつたが、ケツキヨクつかわずシヨブンしてしまつた。クイズはとかなかつたがホンはそこそこよんだとおもう。やっぱりジツサイテキナクイズをとかなければとおもう。

シチ

ニジュツセイキなかばのセンソウでは、いろいろなセンカンがしずんだ。「やまと」もそうだし、「むさし」もそういわれている。クウボも「かが」とかがしずんだのだろう。これらはだいたいむかしのニホンのチメイである。だから、「ニホンがしずんだ（しずむ）」というい

いかたはコウトウムケイではない。サイキンきかれなくなった「やまとだましい」も「やまと」がしずんだのだから、「しずんだたましい」みたいなのはなしになる。「やまとなでしこ」もそうだ。そういうわけがあるから、「やまとなでしこチーム」とはいわずに「なでしこチーム」というのだろう。

むかしのレキシをダイジにするなら、「やまと」などはうみのそこからひきあげたホウがいないのではないかとおもう。「しずんだ」とほかのことでいわれるのでなく、「サイフジョウ」といわれたホウが、きもちがあかるい。だが、なんマントンのふねをひきあげるにはクロウするだろう。うきぶくろでうかせるのではだめか。

ハチ

ニホンジンにとって、このふゆはさむいものになりそうである。それはあぶらのねだんがあがるだろうからである。そうするとデンキリョウキンもあがる。くにのタンイでみれば、ユニウガクがふえてボウエキあかじがでかねない。それはつまりおおきくみたコジンのカテイがあかじになるということである。これはヘイキンテキないかたなので、そんなに

らしむぎがかわらないカテイもあるだろうが、あまりおかねをもっていないカテイにとつてはシカツモンダイとなる。ヘンサチでいうとゴジユウイカのカテイがあかじになるといふことだ。つまり、ニホンのゼンカテイのハンブンが「あかじ」になるわけだ。だからネンリヨウをダイジにつかわなければならぬ。それができなければあかじだ。

わたしはあまりさむいときは、コートをきてねることにしている。チャンチャンコならワフウだが、あまりうっているのをみかけない。これがあつたかいので、ねるときにダンボウはヒツヨウない。ニツチュウにつかってもよい。ダンボウダイがセツヤクできる。とはいへ、こたつをつかっている。ヘヤゼンタイをあたためるとねつがムダになる。テンジヨウまであつたかくするヒツヨウはないからだ。ブブンテキにあつたかければよい。

あとエネルギーをつかうのがフロだ。シャワーならつかつたブンだけであるが、ゆぶねをつかうとヒヤクリットルイジヨウをわかすことになる。だからわたしはキヨクリヨクゆぶねにははいらない。みずあびですませるのである。

こうしたクフウで、さむいふゆをすぐせばあかじはへっていく。ドリヨクすればいいのである。くにのボウエキがあかじということは、コクナイのいえやキギヨウのソウワがあかじということだ。なかにはくろじのいえやキギヨウもあるだろう。しかし、ゴジュツパーセン

トイジョウのカテイやキギヨウがあかじだと、もはや「チュウリュウ」とはいわない。

いまのところシサンがあるだろうから、モンダイにはならないが、あかじがつづけばやがてそれもつきる。たとえばイツチョウエンのボウエキあかじだとしたら、ダイタイひとりあたりイチマンエンのあかじだということになる。キュウリュウがサンジュウマンエンあれば、たいしたガクでないようだが、まみずのイチマンエンなので（ボウエキはコクサイトリヒキだからシンヨウのあるツウカでおこなわれる。キュウリュウはかならずしもそうではない。）おおきいとおもう。キュウリュウをはらつてくれるだれかもイチマンエンのあかじだから、さきざきキュウリュウはへるだろう。

もしそれでも「チュウリュウ」なんてことばをつかうとしたらそれは「ビンボウ」のことだ。ネンリュウのセツヤクもそうだが、ほかのムダもはぶいていかなければならない。わたしはみずのセツヤクもしているが（●『ア』ジュウ、『ア』ニジュウサン『むしのツゴウ ニンゲンのツゴウ』『イカ』『む』）ヒヤクジュウニ、『む』ヒヤクニジュウロク）、もつとムダをはぶいていかなければならないとおもう。いまは「フケイキ」ではなくて「ビンボウ」なのだ。ニンシキをあらたにしななければならぬ。

キユウ

ふゆになるとよくみるとりがいる。タブンきたのホウからやってくるのだろう。わざわざさむいところに行くとりがいるというはなしはきいたことがない。そのとりをよくコンビニでみかける。チュウシャジョウによくいるのだ。たかいたころではないからキケンだろうに、しかしよくいる。なぜ「コンビニ」なのか。かんがえてみると、このニジュウネンで、コンビニはゼンコクテキにひろがった。いまではショウガッコウとチュウガッコウのかずよりおおくのコンビニがゼンコクへひろがった。

そこでこうかんがえるのである。あるひとがおくへリヨコウにいったとする。そこでキユウにひげそりがヒツヨウになったらどうするか。そのひとがジタクちかくのコンビニでいつもかっていたとするなら、そのひとはリヨコウさきでもコンビニでかうだろう。コンビニにあるショウヒンはゼンコクではぼドウヨウだからである。つまりそのレイとおなじように、きたからやってきたとりもコンビニがいいのではないか。タブンチュウシャジョウでひなたぼっこしているからなつもきたのホウでそうしているのだろう。

ジユウ

よくニホンでは、おととなるケンバンガツキのことを「ピアノ」という。イタリアゴで「ピアノ」というと、「よわく」ということらしい。じゃあ「つよく」はひけないのかとなるが、ジツは「ツヨク」もひけるらしい。だから「ピアノフォルテ」というのがセイカクなヒョウゲンのようだ。「フォルテ」はイタリアゴで「つよく」だ。つまり、おとがでるケンバンは、「よわく」も「つよく」もひけると。でもニホンでは、あまりつよくひかないのだろう。「ピアノ」としかいわない。タブン、キンジョメイワクはやめようということだろう。

ジユウイチ

わたしのオヤジがしんでイチネンになる。イチネンまえのキョウはビョウインにいき、コキユウがあらくなつていふことをカクニンしてわたしはいえにかえつた。いきていふホウはシヨクジをとらなくてはいいけない。ずっとみていることもできたが、ナンニチかつづき、おふくろもたおれてしまうというのをさけたかった。コウタイでみればいいとかんがえた。か

えつてしばらくすると、おふくろからデンワがあった。それからしばらくでリンジュウだったようだ。かけつけても、まにあわなかっただろう。すぐにいえにむかえるジュンビをととのえた。

なにしろうちは、ゲンカンからいままでチョコクセンでははいれない。つまりかんおけがはいらないのだ。うらにわからはこんでもらうジュンビをととのえた。タンカみたいなものにオヤジはのせられてトウチャクした。うらにユウドウしてうちにいれた。サイダンをつくってもらつてソウシキのはなし。そのゴはジュンチョウにすんで、サイゴにみたのがカソウバでの「どくろ」だ。はがジョウブだったからちゃんとしたのついていた。なるほど、カハシンのほねからつぼにいれるのだとカンシンした。オヤジもジュジョをおもんじていたからマンゾクだろう（「マンゾク」というのはどうかとおもうが）。

イツカゲツちよつとたつてノウユツした。それつきりだ。ただ、オヤジは「いきること」とはどういうことかをおしえてくれた。しにそうになると、イドウができるキセイしていたいさなむしなどはにげるのだろう。しかしイドウのできないサイボウなどはヒッシになつていきながらえさせようとする。セントウにまけたヘイとおなじだ。にげられなきや、ボタイをおもんじ、うちじにするかコウフクするまでたたかうだろう。「いきる」とはそんなもの

だと。

ジュウニ

もしレキシをサンゼンネンくらいやりなおしたら「カレー（あのカレーである。）」はもうイツカイハツメイされるのであろうか。それほどむずかしいリヨウリである。もつというと、あとサンゼンネンくらいたつと「カレー」なみにすぎないリヨウリができてくるはずである。できてなかったら、「できそこない」で、ジンプルイがタイカしたというべきではないか。ジンがあつたら「カレー」をイチからつくってみたいものだ。

ジュウサン

ニホンで「サイダー」というと、ムカジュウのタンサンいりのにおいつきサトウみずがでてくるが、ホンライテキにはカジュウいりのようだ。みなみのくには「リンゴ」のカジュウ（かおりだけではないとおもう。）がはいったものがでてきた。そういえばサイキンはタン

サンいりのカジユウがはいったのみものがふえてきた。それこそが「サイダー」なのだろう。ただ、ニホンでうられている「サイダー」ふうインリヨウもおいしいとはおもうが。

ジユウヨン

「ジョセイのシヤカイシンシュツ」ということばをきく。ジョセイのノウリヨクをいろいろなところでハツキできるようにしましようということらしい。バスのウンテンシュナンかもジョセイがヤクにつくようになってきた。テレビなんかをみてもキヨウミぶかい。むかしはジョセイのせりふがすくなかったが（タイガドラマなど）、わきヤクだとしても「カツパツな」ジョセイをえんじているのをよくみる。むかしは「おしとやか」というジョセイのビョウシヤがおおかつたとおもうが、かわつてきたとおもう。シヤカイガクテキにいえば、「ジェンダー」のありかたがかわつてきたということだ。そのイツポウ、「エレベーターガール」がへっているようだが。

ジユウゴ

「ジカン」とはなにかというには、あるブツタイがあるキヨリをイドウするのにかかるまだとこたえられる（●『ア』ヒヤクジュウゴ、●『む』サンジュウヨン）。それで、テナタイのイドウをカンサツして、「ネン」、「ゲツ」、「ニチ」、「ジ」、「フン」、「ビョウ」とはかれるようにしている。あまりテナタイをみないひとは、とけいのうごきのホウがわかりやすいかもしれない。「フンシン」がうごいたら、それがうごくまえより「ジカン」がおおきくなっていると。

「もの」がイドウするばあいには「ジカン」というガイネンでかぞえることはカノウだというのにタイテイイギはないだろう。しかし、それが「ジョウホウ」だったらどうか。あるデンシブンシヨがベツなどところにおくられるのに、それを「ジカン」がかかるといえるのか。いまのジョウホウギジュツではチキユウナイであれば、ほぼすぐさまおくられるのである。むしろサイキンは「ラグ」などという。そういえばむかしはチキユウのうらからのジョウホウが、キタイされているよりおくれることがあった。なぜおくれるか、デンキのながれにムダがあつたり、ほそいケーブルでつないでいたりしたために、「ジュウタイ」のようになつていたのだろう。それをおもいだすと、「ジョウホウ（もっとという）とデンキになつてしまうが」のイドウもやはり「ジカン」がかかるといえそうである。

もし、イドウにカンしてまったく「ジカン」がかからないでカンリョウするなら、もうイドウするジュンジョで（もつともはかりづらいだろうが）ケイソクするしかない。トシにいらるひとのコウドウをジュンジョづけてハアクするのになににしている。そんなかんじではほとんど「とき」というガイネンがむずかしくなる。それでも「とき」をセイリツさせようとすれば、なにかのブツタイやジョウホウをどこかにイドウさせて（ゼンテイではすぐというか「ドウジ」についてしまうのだが）わずかなずれをさがして、「ジカン」や「とき」にするんだろうか。もつというなら、ドウジにつかないジョウケンをさがすだろう（たとえば、かがみをタ伊利ョウにつかかって、あたかもチョウキヨリをイドウさせたかのようなやりかたで）。そうしないと「とき」だとか「ジュンジョ」がむずかしくなるのである。

かりにそういう「とき」のない（すべてイツシユンですんでしまう）カンキョウができたら、ニンゲンはブツシツのイドウがイツキにすすみ、あつというまにしんでしまうかもしれないし、ブツシツのイドウをいつでもできるからと、うごかすことをせず、いつまでもいきるかもしれない（いまのところ「シ」はコクフクされていなので、ゼンシヤかとはおもうが「ヨダン」が、ひとりのニンゲンがしぬまえに、そのひとのサイボウをセツシユルバイヨウしてそだてれば、とりあえずまだいきていることにもなる。モンドイはジョウホウのイテ

ンだ【ジョウホウをイテンしないとなまえすらわからない。】。P)。

ニンゲンのジュミヨウはハチジュツサイがセンシンコクではヘイキンテキだが、ブツシツのイドウがはやくなると、あつというまにしんでしまうということだ。「シ」までのシヨリがシユンジにおこなわれるからだ。タンジュンに言えば、ジカンリヨコウをするのは、なまけものじゃないと(すぐにしんでしまうから)たえられないのではないかということ。そういうわたしもよくねるなまけものである。タブンねなかったらしんでしまう。ドウジにイドウできるなにかは「ある」が、それはしんでしまっていると、またなまけものは「うごかない」。「デッド」か「セキゾウ(モノ)」がジソウはできないものの、かつてジソウしていたかもしれないにかだろうか。ソクドがサイコウの「ドウジにトウタツする「ブツタイ」はあるかもしれないが、「あつた」のホウがテキセツかもしれない。そのブツタイは「しんでしまう」ゆえにみつからない(「シタイ」はあるだろうが)。たとえば、なにかのおきものがそうかもしれない。おきものになるまえはイドウしていたと。

「シタイ」や「セキゾウ」からもういちど、サイコウのソクドをもブツタイにすることはむずかしいであろう。ただジンルイは「ひかる」ワクセイをつくりだしているからフシギだ。ニンゲンがつくる「セキゾウ」もキョウミぶかい。ゲンリヨウからジンコウテキにつくられ

たものだが、それにもソクドをつけたりする。バイクやロケットである。しかし、「シタイ」にソクドをつけているような気がする。

ジュウロク

サイキンわたしは「セキハン」をたべなくなった。イゼンはなんかのときにおふくろがたいてくれた。しかしサイキンはである。ていねいなことに「セキハン」をたくセットがうっているので、それをつかっただくことはできる。「おこわ」というのも、まぜごはんのイッシユだとおもっていたら、「つよい」「めし」のこのようだ。「つよい」というカンジを「こわい」とよむのはあまりきいたことがなかった。そういえば「おこわ」はかたかった。

ジュウシチ

よくいう「すし」というのは、ジツはそうふるいものではないらしい。えどキからメイジのころに「す」をくわえてつくりはじめたのがフキユウしたらしい。それイゼンにも「すし」

はあつたが、それはシゼンテキにハツコウさせてつくるようだ。いまものこっている「ますずし」なんかがそうなのだろう（ジツサイにセイホウをカクニンしたわけではない）。つくるのにジカンがかかるからゲンダイジンにはむかないのだろうが。「パン」をハツコウさせてつくるくらいなら、そういう「すし」もできそうだが。

ジユウハチ

ことしはわがやのゆずがよくなった。ひどくえだをきられてからサンネンたつ（●『ア』ハチ）。きられたとしは、みがならず、ヨクネンもゴコテイドのみしかならなかつた。そのヨクネンはニジュツコテイドとれ、ことしはヒヤツコほどになった。あとでみをとろうとしていたら、またおふくろがえだをきってしまった。

どういうフウにきつたかというと、いわゆるきのかたちである。みきをロシユツさせたかたちだ。それをわたしは「シホンシユギのかたち」とよぶ（●『ア』ニジュウキユウ、『ア』ニヒヤクジユウニ、『む』ヨンジュウ）。それはこういうことだ。みのなるきをシユユウしているひとは、わるいひとにみをたべられないように、たかいところにみをおいておこうと

する。そのためにわざわざ はしごをかう。そうやって、はしごというドウグがうれ、「わるいひと（ビンボウニン）」に みをとらせないようなやりかたをするのである。わたしは、ひどいところにみもなつてもかまわないのだが、「シホンシユギ」をキバンにするひとはそうやって「シホンシユギのかたち」にするのだろう。

ジユウキユウ

「はなしをきいてイライラした。」とかいう（●『む』ヒヤクニジュウゴ）。この「イライラ」っていうのは、「いかりがある」ことをさす。これはジュンスイなニホンゴかというところでもなさそうだ。「イラ」というゴがラテンゴにある。これも「いかり」をさす。だから、メイジのころにラテンゴがすこしニホンにはいつてきてできあがったヒョウゲンではないだろうか。

ニジュウ

わたしはキホンテキにひらがなとカタカナでホンをかいている。いまのニホンのフツウのホンはカンジまじりのコウセイである。わたしはトウシヨほぼカタカナだけでホンをかいた(『アルクカラ カンガエル』シヨバン)。ニサクめの『むしのツゴウ ニンゲンのツゴウ』はひらがなとカタカナシユタイでかいた(このホンもそうなりそうだ)。ニサクめをかいていて、これはいけるんじゃないかとおもった。ひらがなにくわえてカタカナをつかうことで、カクダンによりやすくなった。

カンコク(セイホクにあるくに)もドクジのモジでかき、カンジをあまりつかっていないようなので、それでつうじるのなら、ひらがなでもつうじるはずだ。それにカタカナもつかっているんだから、よむのはラクなはずだ。このひらがな、カタカナのニコホウシキでかいていこうとおもう。

ニジユウイチ

「タイムマシーン」というのはよくワダイにだされるはなしである。タブン「できない」けどあったらおもしろいものとかんがえられているだろう。たしかに「ジカンリヨコウ」は

むずかしい。しかし、のぞくことならできそうである。タンジュンにいうと、チキユウからイチコウネンはなれたところにかがみをおく。そうするとチキユウのあるイチニチのえ（えというよりドウガだろう）がイチネンかけてそのかがみにトウタツし、そこで はねかえった「え」がイチネンかけてチキユウにもどる。つまりどういふことかというのと、ニネンまえの「え」がみられるのである。

くわしくみるにはクフウがヒツヨウだろうが、まあかがみをおくイチをかえれば、もつとちかいカコやおいカコもみられるようになる。もつともすでにかがみがセツチされていれば、そのキヨリかけるニのブンのカコがみられる。そういう「え」をだれかがみているとすると、ものごとのカイゼンがすぐにすすむのだろう。もつともその「え」のみかたによっては「カコ」でセイカツすることもカノウかもしれない。ただしくいうとスウネンおくれの「カコ」である。

ニジュウニ

「わらっている」からおもしろいのか、「おもしろい」からわらっているのかはどちらがさ

きかはそのときシダイのような気がする。ひとのウッドウ（このばあい「わらい」をみてというソクメンもあるからだ。いかりのばあいもそうかもしれない。「どなりちらしている」から「はらがたっている」のか「はらがたっている」から「どなりちらしている」のかだ。

ひとりでカンケツするばあい、ゼンシヤがおおいひとは、カンジョウハとでもよぶべきか、あまりカンゲイされないような気がする。しかし、「わらおう」とおもったばあい、とりあえず「わらえ」ば、「おもしろく」なるかもしれない。「わらい」でも「いかり」でもそうだが、そういうウッドウはだれかとキョウユウされることがある。それがないと「おわらいゲイン」のゲイは、どこのブブンがイチバンおもしろかったのかわからない。

ダイタイひとはおなじカショでわらう。「おわらいゲイン」のホウは、おキヤクがわらうカショがダイタイわかつている。そして「わらい」をねらってブタイにのぞむ。セイリガクテキにいえば、サイボウがコウフンするシゲキをわかつているということだ。もし、あなたがウチュウジンをさがしたかったら、そうおもわれるひとにわらいばなしをするといい。わらせるだけのしくみをもっていなかったらわらえない。つまり、「べつもの」かどうかわかるのだ。

「いかり」がキョウユウされると「ボウドウとかになつたりする。でも、ひとのカンジョ

ウがながつづきするのはケツコウむずかしいことだろう。ベツのことをやればすぐわすれてしまう。とすると、「ボウドウ」もそうながつづきしないはずである。「ヘヤのデンキをけしわすれてきた。」そんなことをおもいだすと、やっぱり「かえる。」となつてしまう。

カンジョウもニンゲンのタイナイのヘンカだろうが、そういう「いかり」についてのカガクブツシツがカツパツになるから、そのカンジョウが、ながくつづき「ボウドウ」がカノウになるのではないか。だから、まもるほうも「サイルイダン」とか「チンセイザイ」とかをつかつたりする。「サイルイダン」はなみだをださせるキタイがこめられたたまだ。このキタイをあびることによって、ひとは「なみだ」をだすハンノウをする。その「なみだ」と「なみだ」をだしたときのキオク（つまり「かなしい」）がそのひとにイシキされ、「いかり」がソウタイテキにおさまつていく。「チンセイザイ」はもつとてつとりばやく「いかり」をカガクテキにおさえてしまう。だから、シンジダイのボウドウには「いかりザイ」がヒツヨウなようにもおもう。タンジュンにいえば「ドーピング」だ。モチロン「オリンピックク」ではつかえないが。

ニジュウサン

「ダイベン」のことを「ウンコ」とかいったりする。なぜそういうようになったのか。おそらくシテキなひとが、「そらにうくくものようだ。」といったのではないだろうか。それだけでは、ただの「ウン」になってしまつて（セキランウンとかの「ウン」である。）クベツがつかないから「くものこ（ども）」で「ウンコ」になつたのではないか。ジツにシテキなはなしである。

ニジュウヨン

ニシンスウとかジュウロクシンスウとかよくつかわれるジュツシンスウでないスウジのかぞえかたがある。わたしなんかはジュツシンスウでなれてしまつてゐるから、ジュウロクシンスウでいわれてもわからない。ガツコウのセイセキもゴダンカイとかジュウダンカイだ。タブンわかりやすいからであらう。シンリガクのケンキュウでは、ゴダンカイとかななダンカイをよくつかつてゐるみたいだ。タブンそれよりもおおくてもわかりづらいし、すくなくともサがいまひとつわからないのであらう。

オンガクをつくるソフトウェアではジュウロクビットとかニジュウヨンビットとかがある。

これはたとえばオンリヨウをジュウロクダンカイにくぎるわけだ。サイキンはパソコンがロクジュウヨンビットになったというからロクジュウヨンダンカイもつかわれるのだろう。

ジュウダンカイとか、ななダンカイではかるニンゲンよりコンピュータのホウがジュウロクだ、サンジュウニだ、ロクジュウヨンだ、よっぽどこまかくなっているわけだ。だから、パソコンにキブンをたずねると、ゼンブのカイトウはジュウロクとかサンジュウニとかロクジュウヨンとおりになる。それをヤクすと、「ややジャツカン おおげさではなく、かなしい」とか、セイリをしないとわからないヘントウがかえってくる。ま、おそらかなダンカイぐらいにチヨウセイしてヘントウさせるのだろうが。

ニジュウゴ

なにかをハツメイしたひとは「えらい」という。とくに「えらい」とおもわなくても、そのハツメイをリヨウしたものをつかっていたりする。そんなものがタクサンあってセイカツがなりたっていたりする。だから「えらい」だろう。

そういうハツメイがとくにおおかつたところを「ブンメイ」という。ガツコウでもおそわ

るが、メソポタミアとかむかしのチュウゴクとかがそうである。なぜ、チュウトウにテロリストとよばれるひとがおおくて、チュウゴクセイフはイキがたかいか。それはイスラムシソウでもチュウカシソウがそうさせるのでもなく、これはおそらくブンメイをもつくにだからであろう。ブンメイをうみだせば、それなりにもうかるだろうし、ジフがでてくる。それをくじこうとすれば、ハンパツするわけである。もうちよつというと、タブン、チュウトウやチュウゴクがおこるあいては、「メソポタミアブンメイ」とか「チュウカブンメイ」をソッケイしていいのである。

ちなみにニホンセイフも「メソポタミアブンメイ」はソクショウしても、「チュウカブンメイ」をソッケイしていいのだろう。オウシュウのブンメイをシジするのはジユウだが、ブンメイにタイするソッケイはわすれないようにしたいものだ。

ニジユウロク

「ウチュウ」はウインドウタイであろう。チキュウもまわっているし（カクニンしたわけではないが）いろいろうごいてる。しかし、「ウチュウ」のそとはどうか（わたしはかつて「か」

となづけた。」「ウチュウ」がウインドウタイだとすると、「ウチュウ」のそとはセイシタイではないか。アングアイ、「ウチュウ」のそとのむこうに、またウインドウタイがあるかもしれない。そうかんがえると、「ウチュウ」なんてキョジンのいへのセンタクキミたいなものかもしれない。

ニジユウハチ

「ジカン」を「ジカン」たらしめているのはなにか。「ジカン」をロコモータイブ（エル）ではかるとまえにかいた（●『む』サンジユウヨン、●ホンシヨ「イカムヒヨウキ」ジユウゴ）。ではなにがロコモート（イドウ）させるのか。

ニンゲンやドウブツはチキュウジョウではそれなりにうまくあるけるが、ウチュウではうまくあるけない。あるくというよりおよぐだろうが、それはおそろしくクツウなようにおもう。なんらかのスイシンソウチがあつたホウがカイテキだろう。

そのスイシンソウチについてかんがえると、「おもさ」でうごけるキヨリがかわってくる。ネンリヨウはイッテイとする。つまり「ジカン」とは「おもさ」によつてきめられるメンが

あるということだ。わたしはイゼンに「ジカン」のシツリヨウのことをタイミックとなづけ
た。ここでのギロンもコウギのタイミックについてだ。おもさをロコモートさせるにはネン
リヨウ（エネルギー）がヒツヨウである。おもさブンのエネルギー（ここではマサツなどの
こまかいジヨウケンははぶく。）がすすむことのできるキヨリになる。つまりジカンである（チ
キュウのコウテンでイチネンをはかっている）。

ただし、エネルギーがあっても、かならずしもすすむことにハツドウしているわけではな
いとおもわれる。つまり、すすめるのにすすまないということだ。それがセイタイのむずか
しさだとおもう。おなじエネルギーリヨウなら、シツリヨウのちいさいホウがよりジカンを
もつ。ジカンとシツリヨウをかけるとエネルギー（そのキヨリをロコモートするのにヒツヨ
ウなエネルギー）がでる。それをタイミックというかはベツとして。

ニジュウキユウ

ニジュツセイキはアメリカガツシユウコクがコウギヨウセイサンのメンでつよかったとい
われる。ニジュツセイキコウハンになって、ニホンがそれにつづくようなハツテンをした。

ニジュウイツセイキにはいるとチュウゴクである。ニホンでもチュウゴクセイヒンがあふれることになっている。しかし、チュウゴクのコウギョウハツテンは、これイジヨウカノウなのだろうか。わたしはむずかしいとおもう。

ニホンのジンコウはイチオクニセンマンニンテイドで、かりにコクミンすべてがコウギョウセイサンをしてもななジュウオクのチキュウのジンコウすべてにセイヒンをうってもとりのロクジュツコつくつてうることができると、しかし、チュウゴクでそれをやると、ジンコウがジュウサンオクだからゴクしかつくらなくてよい。つくりすぎてもかいてがないし、カカクもさがる。それではさすがにたべていくのにクロウするだろう。だから、チュウゴクでもサービスギョウのヒリツがあがるのではないだろうか。

サンジュウ

あるときから、シジヨウにチュウゴクセイヒンがでまわるようになった。チュウゴクセイフが「カイホウ」ケイザイをうちだして、キュウジュウネンダイに、センシンコクのキギョウが、チュウゴクホンドにコウジヨウをつくったことによる。ジンケンヒがやすいからチュウ

ウゴクにコウジョウをつくるが、ジツサイにつくるのはニンゲンでなくキカイをいれてやっているとおヤジからきいたことがある。たしかにそれならどこでつくってもヒヨウはそうかわらないだろう。むしろチュウゴクのケイザイがうむむいたときのシジヨウをキギヨウはねらっていたのだらうといまではおもう。

レイネンダイから、ニホンのシジヨウにまわるチュウゴクセイヒンがふえてきた。それまでガツシユウコクセイや、トウナンアジアセイだったヨウフクが、チュウゴクセイだけになつた。ジユウネンダイになると、やすくうられてゐるものはみんなチュウゴクセイだといふニンシキができるようになった。デンキセイヒンもそうだ。ダイタイやすくうられてゐるものはチュウゴクセイだ。ザツカもそう。

ニホンセイフはブツカをあげたいとおもつてゐるようだが、やすいチュウゴクセイがはいつてきては、そうカンタンにあがるわけはない。ツウカキヨウキュウリヨウをふやせばブツカはあがるというのは、とじられたケイザイユニットのなかでというジヨウケンつきだらう。しかし、いまはエンやすがすすんでいるから、ユニユウヒンがたかくなつたといえなくもない。だが、チュウゴクゲンとのヒカクでエンがさげなければ、やつぱりブツカはあがらないだらう。チュウゴクがケイザイハツテンして、ジンケンヒがあがつたからキギヨウはほかの

くににコウジョウをうつしそんなものだが、やっぱりチュウゴクシジョウがねらいだったのだらう。あまりニホンシジョウでのチュウゴクセイヒンがへっていないのがゲンシジョウだ。

サンジユウイチ

フロイドセンセイ（セイシンブンセキのソ）はファルスをといたといわれる。それはただしいかもしれない。なにかをカンケツさせようとするわけだ。くるまのいきさきも、フロイドセンセイはヨキしていたかもしれない。

くるまはエイゴで「カー」という。ただそれだけではフジユウブンなようだ。サイゴのトウタツ、いってみれば、トウゲンキョウのようななにかがヒツヨウなのだ。そのキタイをしてナンニンのひとがくるまをかつただらう。あるひとはそのトウタツテンをみつけてしまった。ユウメイなハンバーガーやである。タブンそのカンバンをみて、はいることをきめたんだらう。そういうフウにゴをつづけると「カーム」となる。ただザンネンながらホンライテキなモクヒョウとつづりはちがうようだ。

エイゴがコクサイゲンゴになったといわれるゲンザイだからもつと「カー」がうれるかも

しれないが、エイゴのキョウカシヨはこたえてくれない。フロイドセンセイフウにいえば、いまのニホンのわかものはキョウヨウがなさすぎるか、タシヤにカンシンをもっていないか、キンヨクシユギテキなのだろう。

よのなかの（みぢかなでもいい）おとことおんなのなかがわるくなるほど「カー」はうれるかもしれない。トウタツをさがしてだ。いつてみれば「カー」がうれることはセイリゲンシヨウなのだ。そしてそのなかのナンニンかはユウメイハンバーガーテンにはいつていく。それはセイメイのシユクメイかもしれない。そのかわりはあなたがみつけるべきだ。コンペンゼーションといわれないうな。

サンジュウニ

さきにエル（ロコモーターイブ「ウンドウリヨク」）イコールダブリユ（おもさ）ブンのイ（エネルギー）のはなしをした（●ニジュウハチ）。これはわたしのばあい、エルをジカンともかんがえるから、ジカンイコールダブリユブンのイーともいえる（なぜテイ「タイム」にしないかという、かならずしもながれるわけではないからだ。テイシしたら、タイムと

いうのかわからないので)。しかし、どうやってそれがうごくかまではセツメイできない。うごかなかつたらエルとはいえない。だから、「ジカン」についていうときはただしいかもしれないが、うごくをネントウにおくとジャツカンテイセイがヒツヨウである。

うごくとはなにか。それはニンゲンのばあい、あるシツリヨウをへらしてドウリヨクにかえることである。グタイテキにはダンスイカブツやサンソをサイボウがドウリヨクにかえることだ。かえたあとのものをコキュウやベンによりハイシュツする。サンソをとりいれ、ニサンカタンスをだす。タンジュンなブンシキゴウのヒカクではだすホウがシー（カーボン）のブンおおい。つまりそうやってドウリヨク（サイボウタンタイをふくみ）をえるためにシツリヨウ（シー）をへらしている。モチロンたべることをするのでシツリヨウはまたゾウカする。しかし、ウンドウメンにかぎっていえば、シツリヨウはゲンシヨウする。ロケットのばあいはうごくたびにネンリヨウをシヨウヒする。だからつかったネンリヨウのブン、シツリヨウはへる。そうやってウンドウをカイシするにはシツリヨウがイチジテキにせよへるのである。

サンジュウサン

ニンゲンはどのくらいエネルギーをもっているのだろうか。タイジュウではかれるといわれたこともある。それならためしにもちあげてみればよい。ロクジュツキロのタイジュウひとならロクジュツキロのものもちあげられるであろうか。タブンあるテイドきたえていれば、タンジカンもちあげられるのではないだろうか。

とぶこともできる。それもロクジュツキロのひとつがロクジュツキロのからだをもちあげられるであろう。しかし、タンジカンである。これはどういうことか。ニンゲンはジブンのタイジュウイジョウのちからをハツキできるのだ。つまり、ニンゲンはタンジカンながらそれらをとべるのである。しかし、キンニクがたりなかったり、ちからのつかいかたがよくなかったり、チョウジカンとぶことはできない。いいドウグがカイハツされれば、あしこぎプロペラみたいなのができれば、ながいジカンとべるようになるかもしれない。

サンジュウゴ

ときとともにかわっていくものがある。いや「とき」とともにではないかもしれない。サイキンはええきのベンジヨをつかったときに、かみがないということとはほとんどないとおもう。

しかしすこしまえは、ベンジヨのいりぐちにかみをうるジハンキがおいてあった。つまりダイベンをするとしたら、それをかうか、ベツにヨウイせねば、あとがこまることになってしまふ。だから、ゴジュウエンかヒヤクエンだしてそのかみをかつた。でもサイキンはそういうことはなくなってきた。ひとことではいへば、サービスがよくなったのである。どうしてか。コクテツがミンエイカして、キヤクをダイジにするようになったのであろう。それをシテツもツイズイしたと、そんなところだろう。まあありがたい。

サンジユウロク

あきにうえたキヤベツやブロッコリーがそだっている。むしもすくないようでそだつのにモンダイとなるシヨウガイもすくないようにおもわれた。しかし、とりがかじりはじめた。タブンふゆは、えさがすくないのだろう。えさもしばらくあげなかつたからかもしれない(●アゴジュウハチ)。ブロッコリーにくいつきはじめた。そのつきはキヤベツである。やっぱりえさをやらないとだめなのであろうか。またえさをやるようにした。

サンジユウシチ

むかしは、はえたたきをつかっていたがサイキンはみなくなった。タブン、ブツリテキにたくより、「カガクテキ」にたくようになったのだろう。かについてもそうだ。むかしはかやをつかっていた。しかしあみどがフキユウしたからか、レイボウがフキユウしたからか、つかわなくなった。ナンゴクのいちばとかはおもしろい。はえよけにちいさなファンでひもをカイテンさせる。それで、はえがよつてこないというやりかたである。あみどのおかげで、はえたたきはヒツヨウなくなったのかもしれない。イダイなハツメイだ。

サンジユウハチ

セカイのとみのハンブンをなんパーセント（ひとけた）のかねもちがにぎっているといわれることがある。それにタイしてけしからんということはあるが、それだけそのかねもちがいいしごとをしたのだから、しょうがないともいえる。なにもしないでおかねをかせげるわけではないのである。そういうジユウキヨウがあるから、そういうとみをシヨミンにこぼ

しあたえるみたいなのはなしをしたりする。でも、やっぱりゲームセンターのコインゲームのように（●むヒヤクニジユウニ）そうカンタンにはこぼれおちるわけではない。どうすればこぼれおちるだろう。どこかにおかねをおとせば、ナンニンかがひろっておわりである。それなら、こぜにをタクサンおとせば、ケッコウなかずのひとがひろえるかもしれない。しかし、そのばにいるひとしかひろえない。

あるキセイをカンワすれば、そのカンワされたギョウシユにひとびとがサンニユウする。それでセイコウすれば、それにカンレンするギョウシユもうるおうのである。これはあらたなかねもちのつくりかただが、そういうチャンスにあたえるのもいいかもしれない。ビョウドウにケツカをあたえると、あまりはたらかないひとが、はばをきかせて、やるきのあるひともしやるきをなくしてしまう。かねもちのやるきをうばえば、とみはいきわたるかもしれないが、それはどうなのか。ゴルフのハンデイキャップのようなものをあたえたとしても、やっぱりまたおかねをかせいしてしまうようにもおもえるのである。しかし、ゼイのルイシンカゼイとはそういうことある。

サンジユウキユウ

ニホンのガッコウではカンジをならう。よむだけでなく、かきかたもおぼえさせる。そうするとカンジをよみかきできることがそだつ。しかしである。ホンシツテキにそれはダイジなのだろうか。たしかにいまどきのホンはカンジまじりブンでかかれるので、それをよみなければカンジをよむノウリヨクはヒツヨウだろう。たしかにそのノウリヨクがあればメイジジダイのホンもよめる（だがカンジがおおい）。しかし、えどイゼンのシヨモツはふででかかっている。それはクンレンしないとよめない。それでもそういうシヨモツをよみなければベシキヨウするのだろうか。

メイジイコウのホンもいまはてがきでフクセイするひともいないだろうから、よめればいいのだとおもう。それなら、カンジのガクシユウはよみだけでよいのではないか。デンシキキのフキユウにより、かくわりあいはすくないはずだ。センタクセイにしてしまってもよいようにもおもえる。そのあいたジカンになにをやるかはいろいろギロンがあるだろうが。いまはエイゴもジュギヨウがあるので、そうするとエイゴまじりブンになってしまふだろう。もつともニホンジンのエイゴノウリヨクは、コクサイテキなスイジュンとヒカクしてひくいというから、エイゴをよみかきさせるのもいいかもしれない。

シャカイシユギはシツパイといたり、サイキンではきかないが、シャカイシユギはいいといたりする。だがホントウにシャカイシユギはシツパイなのだろうか。シャカイシユギはシホンシユギとヒカクされたりするが、コンカイは、シホンシユギはダイサンのかんがえかたとしておく。

センシンコクではイッパンテキにシジョウケイザイである。シジョウにはキホんテキにジユウにたちいれる。そしてジユウにバイバイできる。それはニンゲンがものをヒツヨウとするからそのジユウをみたすためである。ものがなかつたらニンゲンのセイカツがなりたない。シャカイシユギのばあい、ハイキュウなどがあつたりする。そうするとセイカツができるわけだ。ただハイキュウにあるイガイのものはてにはいらない。そもそもつくつていないかもしれない。ハイキュウするシユタイが、なにかをユシユツして、ハイキュウしてほしいとキボウのあつたものをユニユウできれば、ハイキュウをうけるようなやりかたでもゆたかにくらせるだろう。しかし、そういうことをつづけたタイコクは、ハイキュウセイドをやめたときく。そしてシジョウケイザイをドウニユウしたのだ。そのタイコクがシャカイシユ

ギのキシユであつたため、そのタイコクがやめてしまうと、ほかのちいさいくにもそれに近づくだらう。そういうわけでシヤカイシユギをとるにはすくなくなつたはずだ。

そういうジヨウキヨウからシヤカイシユギはシツパイといえるか。そうではない。ジユウシジヨウシユギはモチロンつよいが、シヤカイシユギもまたつよいのである。そのシヤカイシユギとはなにか。カイシヤである。カイシヤのジユウギヨウインは、しごとをしてキユウリヨウをうけとる。それはハイキユウをうけとるシヤカイシユギのセイドにしている。にているというのは、ハイキユウをうけるリヨウがまちまちであるからだ。

さてそのシヤカイシユギにちかいカイシヤはかわるだらうか。チンギンなどがかわつた（ノウリヨクキユウ）カイシヤもできたが、そうはかわっていないかもしれない。また、ヒセイキコヨウなどロウドウシヤのありかたもかわつたメンもある。しかしながら、カイシヤがジユウシユギにかわつたというはなしはきかない。

ロウドウシヤのジユウシユギはふえたかもしれないが、ホウシユウをうけとるのにクロウするブン、シヤカイシユギをもとめるひともある。だからジユウシユギとシヤカイシユギはタイリツするかはともかく、まだまだジユウヨウなロンテンであらう。シホンシユギといふかシホンは、それぞれのセイサンカツドウのおおきさであらうか。

ヨンジウイチ

すしのレキシはこめでジクセイさせたさかなのすしから（まずずしなど）、はやずしとよばれるジョウゾウすをつかって、タンジカンでしあげるすしがふえてきているゲンジョウにつづく（●ジウなな）。そのはやずしをブンカイすると、さしみとすめしになるのがゲンジヨウだ。そうやって、ホンライはなまでたべなかつたさかな（うみのちかくではたべていただろうが。）をたべるようになったとおもえる。むかしはひものやホンライテキなすしにカウしてチホウにはこんだ。しかし、レイゾウコができるようになり、なまのさかなをはこべるようになった。だから、すくなくともうみからとおいチホウでさしみがたべられるようになったのはメイジイコウだろう。ニホンはエネルギーをユニウしているわけだから、さしみはぜいたくかもしれない。ただでレイゾウコがうごくわけではないのだ。

ヨンジウニ

ガクギョウセイセキよりもダイジなことがある。とオヤジがいつていた。セイセキのツウ

チヒヨウのうらにあつたひとがらにカンするようなメンを オヤジはジュウシしたようだ。どちらかというと、わたしはとびまわっていたことがおかつたようにおもう。チュウガクセイになつて、シケンセイセキがジュンジョとしてでも、わたしはベンガクにはげむことはなかつた。シンロだんだきかされたが、ダイタイこんなかんじとかにおもつて、ヘンサチをあげようとか、そういうドリヨクはできなかつた。そんなわたしをみていったのかもしれない。

そういうドリヨクをしなかつたわたしではあるが、たしかにセイセキより、ひとがらがダイジかもしれないとおもうようになった。セイセキはキオクリヨクシケンみたいところがあつた、ひとがらというのはイチニチキオクしてどうなるものでもない。まあガクセイだからそれでいいのだとおもうが、しごとだつたらとおもう。いずれにせよドリヨクなんだろう。あとでドリヨクしなかつたらそうおもえなかつたかもしれない。

ヨンジュウサン

さけをナンネンかねかせてシュツカしたりしているようだ。わたしはウイスキーからはい

ったが、ブランデーもそうだし、シヨウチュウもねかせたものがあることをしった。ウイスキーを、それがセイサンされたところはなにをしていたかとか、かんがえながらのむようにはしていた。そのエンチヨウで、ジブンがうまれたとしのさけはどうだとおもい、みつけてかった。シヨウチュウにネンスウがたったものがあることをしったのはそのときだ。のんでみるとうまかった。オヤジにもませたらいいかおをしていた。ゼンブのまずにゆっくりのもうとおもっていたのだが、あるときみてみるとシヨブンされていた。またさがすのはカントンではないだろう。

ヨンジユウヨン

ナンポウのくにでいろのついたパンをみた。かぼちやとかほうれんそうをねりこんだのだろう。でもニホンではどうか、うちのちかくではみかけない。ひさしぶりにいいかとおもうが。まあ、ちやそばやよもぎもちをつくるのだからできなくはないんだろうけど。

ヨンジユウゴ

ひとりあたりジーデーピーはトシコツカのホウがたかくでる(●ア ニヒヤクサンジュウイチ)とシテキした。ジンコウがミツシュウしているし、とりひきのキヨリがみじかければヒンドもあがるだろうからだ。だからフツウのくにのスウジとくらべるのはテキしていないかもしれない。そこでジーデーピーをヒカクするために、ミツドわりジーデーピーをか
んがえた。

これはくにのなかのヘイキンテキなひとりあたりリヨウイキ(トシでもノウチでもない)(ジンコウわるメンセキ)でひとりあたりどれだけセイサンされているかをしめす。いいかえれば、くにのひろさをイチヘイホウキロメートルとしたときに、そのひろさのなかでのひとりあたりどのくらいセイサンするかシヒョウだ。つぎのスウシキでケイサンする。

ひとりあたりジーデーピーわるジンコウミツドだ。これでトチをふくめてひとりがあどのテイドセイサンしているかがわかる。このあたいがひくいばあいのひとつのリユウはトシカがすすんでいることであろう。このあたいがたかいたとヒコウリツかもしれないが、それもゆたかさではある。かならずしもひとはトシにすみたいとはかぎらないのである。

ヨンジユウロク

オヤジがシヨウユのことをむらさきといていた。ジシヨにもものっている。しかし、なぜ「むらさき」なのか。シヨウユはむらさきいろかという、そういうわけでもなさそうだならば、コウカなものとしてそういうのだろうか。

むらさきいろは、むかしのコウキュウカンリョウがみにつけたいろといわれる。わたしはかつてそんなイシキがなかったから、むらさきいろのふくをかったことがある。しかし、そういうレキシがあつてか、むらさきいろのふくをきているひとにはメッタにであわない。そういうコウキュウなものというイミなんだろうか。

ヨンジユウシチ

セイシヨには、かみさまがむいかカンはたらいたあとに、イチニチやすんだとかかれています。だからタブンオウシユウのひとはまねをして、シユウにイチニチやすむようになったのだらう。ニホンではメイジのところにタイヨウレキをドウニユウして、そのかんがえかたをとりにれたのだとおもう。しかし、サイキンはふつかやすみなさいという。なぜかみさまがむいかはたらいて、ニンゲンがイチニチおおくやすむのだらう。たしかにそうすることでハッ

テントジョウコクにもケイザイセイチヨウのチャンスがまわっていく。しかし、それをいつ
ておいてまだまだ「ケイザイセイチヨウ」などといっている。ドヨウビ、ニチヨウビにやす
んでしまうと、ケイザイセイチヨウはにぶるだろう。ジーディーピーがあがらないからだ。
だからあそびにいきなさいというかも知れないが、そんなことをいうのは、フキンシンなよ
うなきがする。

ヨンジュウハチ

ドラというのはチュウゴクでカイハツされたガツキでないか。たたかいのときなんかにな
らすようななきがする。しかし、ニホンのミュージシャンなんかがつかうドラはオウベイセイ
かニホンセイだろう。ゴングというヤクもある。それをかたどって「ドラヤキ」がつくられ
たのだろう。わたしもすきだ。しかし、チュウカケンのあるくには、ドラをかたどったア
イスクリームがある。わたしなんかは「ドラヤキアイス」といっていたが、おいしい。だが、
そのドラヤキだ、ドラヤキアイスのルーツは、パンケーキにあるのかもしれない。ホットケ
ーキというやつである。

ヨンジユウキユウ

ジンセイがすんなりすすむひとがいるし、スムーズにすすまないひともある。わたしはコウシヤのホウだった。チュウガツコウにかよっていたぐらいから、スムーズにいかなくなつた。タンにベンキョウがきらいだっただけといえそうだが、ベンキョウイガイにオンガクをみいだした。それはそのゴもつづいた。そうしていると、おややそのほかを止めろというかもしれない。しかし、オヤジやおふくろはハンタイしなかつた。ユイツイやがっていたのが、わたしがコウコウにいかかつたときだ。ダイガクにいつてシユウシヨクしてほしいとおもっていたのかもしれない。しかし、キホンテキには、やってみろだつた。わたしがブツブツキカクしたことをセツメイすると、「やってみろ。」とオヤジはいつていた。たしかにブツブツいつていてもすすまない。

ゴジユウ

いろいろシツパイをしながら わたしはセイカツしている。それでかんがえるようになった。

サイキンになって、さきのことをかんがえるようになった。といつてもタニンのことやシャカイのことは、わたしがどうおもつても、ベツにツゴウがあるからみぢかなことをかんがえる。しごとのヨテイをきめたり、シヨウライになにがあつたらいいかというブツピンのコウニュウのことをかんがえたりなど。また、としをとるにつれて、わかること、セツメイができることがふえてきている。それをふまえてというわけである。あたらしいなにかというのもカノウだが、やつぱりなれたものがいいとおもう。しかし、なかなかえられづらかったり、ダイジにできなかつたりしたこともあるとおもう。まあジブンのツゴウをダイジにいきてきたのだからしょうがない。

よるこぶゲンシジン シドクバン

エイゾウ

ニセンジュウハチネンサンガツサンジュウニチ

ニセンニジュウニネンシチガツジュウナナニチ

iii toga db003-3

エイチテイテイピーコロンスラッシュユスラッシュユアアイアイアイテイオージーエーピリオドシ
ーオーエム

テイエスユーエスエイチアイエヌアットマークアイアイアイアイテイオージーエーピリオドシ
ーオーエム

